

## 環境方針

私達は、オムロングループの社憲・企業理念に基づき、ヒト・モノ・カネ・エネルギーなどの経営資源を最大限、有効に活用し、社会にとって有用な商品・サービスを提供することにより、グローバルの環境負荷低減に貢献していきます。

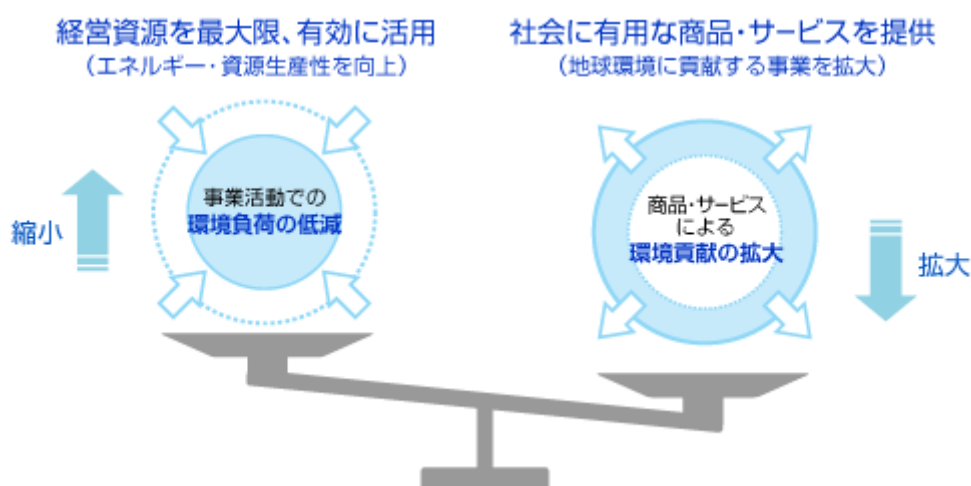
1. オムロングループの事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を考慮し、グローバルに環境マネジメントシステムを確立し、継続的な改善を図ります。
2. 環境側面に関する環境法規制及び受入れを決めたその他の要求事項を順守するとともに、環境保全及び汚染の予防に取り組みます。
3. 環境方針のもとで、目的・目標・計画を定めて取り組み、定期的評価を通じて維持・改善と活動の見直しに努めます。
4. 環境方針を円滑かつ効率的に達成するため、全従業員に対して環境教育及び啓発活動を行い周知するとともに、オムロングループのために働く業務委託先にも伝達します。
5. 環境方針及び環境取り組み状況は、必要により適切な形で一般に公開します。

2011年7月1日改定  
オムロン株式会社  
代表取締役社長  
山田 義仁

## 環境ビジョン

### グリーンオムロン2020

オムロンは、1996年にグループ環境方針、2002年に環境経営ビジョン(グリーンオムロン21)を制定し、主に国内のCO<sub>2</sub>総排出量、廃棄物の事業活動での環境負荷を低減する活動を中心にして、環境経営の推進に取り組んできました。新オムロングループ環境経営ビジョン(グリーンオムロン2020)では、今までの取り組みに加えて、企業理念の基本理念「企業は社会の公器である」に基づき、社会の環境負荷を低減するための有用な商品・サービスを創造・提供することで、環境経営を更に推進し、持続可能な循環型社会への貢献をしていきます。



## 環境目標

オムロンでは、1990年代に、日本国内事業所のエネルギーや資源の消費などの環境負荷低減に取り組みはじめました。2002年からは、長期目標を定め、グループ活動をオムロングループの海外事業所にも徐々に広げて、環境負荷低減に取り組みました。現在は、グリーンオムロン2020環境目標(オムロングループ2020年度環境目標)を設定し、達成に向けて取り組んでいます。

### グリーンオムロン2020環境目標(オムロングループ2020年度環境目標)

1. グローバルの売上高CO<sub>2</sub>生産性  
2010年度比で30%向上(対象:グローバルの生産拠点)
2. 商品・サービスによる環境貢献  
環境貢献量>グローバル生産拠点のCO<sub>2</sub>排出量

環境負荷低減は、国内の直接の事業活動を中心に取り組んできました。オムロンでは、仕入先様の事業活動、製品の物流、お客様の使用時にも、エネルギーや資源を消費していることを認識しており、グリーンオムロン2020では、サプライチェーンの環境負荷低減の活動を強化していきます。また、グローバルの事業活動での取り組み強化が必要と認識しており、グリーンオムロン2020では、グローバルの主要な拠点で、環境ISOの認証取得とマルチサイト化に向けて取り組み、環境経営推進体制を強化していきます。

## 行動指針

オムロンでは、環境ビジョン「グリーンオムロン2020」の実現に向け、6つの領域を柱とし、活動を推進していきます。



エコファクトリー/  
オフィス/ラボラトリー

事業活動で使用するエネルギー・資源の投入量を最小化するとともに循環利用を進め、排出削減に取り組む



エコプロダクト

顧客に環境を保証した商品を提供するとともに、ライフサイクル全体を通して社会の環境負荷低減に貢献する



エコロジスティックス

原材料の調達から生産・販売・物流に至るサプライチェーン全体で環境負荷を把握・改善に取り組む



エコマネジメント

環境ISOの認証の拡大、マルチサイト体制を確立し、環境リスクの低減およびコンプライアンス徹底を図る



エコマインド

社員一人ひとりが環境意識を高め、環境保全活動のレベルアップが図れるように環境教育、啓発活動を充実する



エココミュニケーション

環境保全の取り組み内容や成果を積極的に情報開示し、地域・社会に貢献する

# 環境的側面の報告

## 目標と実績

評価 ○:目標達成 △:目標を一部達成 ×:目標未達成

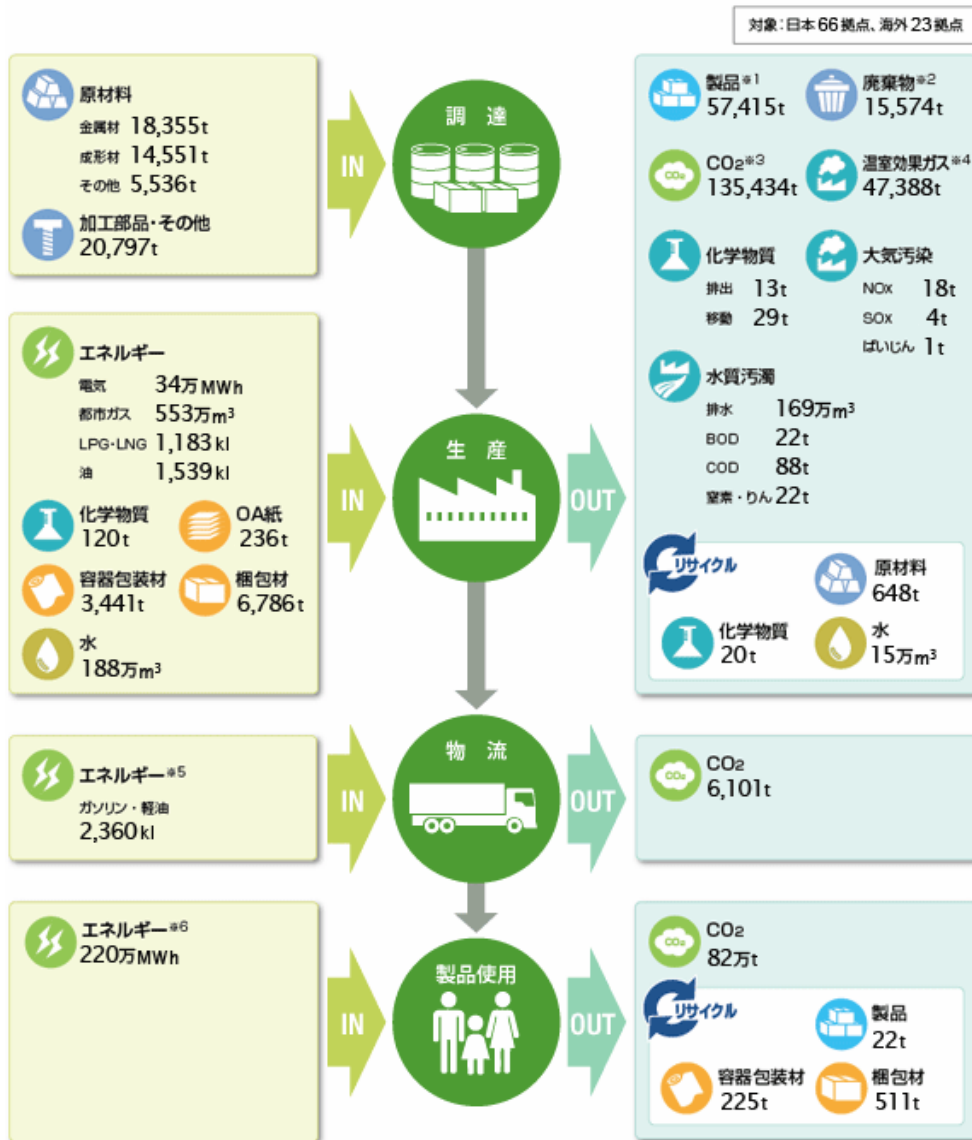
テーマ	2010年度の目標	2010年度の実績	評価
 環境教育／啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境教育プログラムの運用継続</li> <li>●環境啓発施策の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新入社員への環境教育(4月)</li> <li>●eラーニングによる内部監査員研修(年間)</li> <li>●社内メディアを活用した啓発活動の実施</li> </ul>	○
 環境会計 汚染管理 ／リスクマネジメント 環境ISO認証取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境会計の展開継続</li> <li>●MFCA(マテリアルフローコスト会計)導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あらたに2拠点に展開</li> <li>●MFCAを新たにサプライヤー様1社へ導入</li> </ul>	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●法規制違反、事故、クレームの0件継続</li> </ul>	●法規制違反:3件	×
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●岡山事業所:浄化対策の実施継続</li> </ul>	●岡山事業所:浄化対策を井戸水モニタリングへ移行	○
 エコ商品の開発／提供 規制化学物質の全廃 グリーン調達 製品リサイクル／リユース	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新商品のエコラベル商品化率:10%</li> </ul>	●新商品のエコラベル商品化率:24%	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●規制化学物質の全廃継続</li> <li>●RoHS&amp;REACH対応のITシステム統合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●規制化学物質の全廃継続</li> <li>●ITシステム統合完了、2011年7月より運用開始</li> </ul>	○
	●グリーン仕入先からの調達継続	●認定グリーン仕入先からの調達継続	○
	●製品リサイクル／リユース継続	●自動改札機、券売機のリサイクル継続	○
 CO <sub>2</sub> 排出量削減 廃棄物削減／リサイクル PCB廃棄物の無害化処理 PRTR法対象物質の削減 省資源(水・紙) 大気汚染防止 水質汚濁防止	〔日本〕 ●総排出量81,876トン 〔海外〕 ●2002年度比で生産高原単位を8%減	〔日本〕 ●72,269トン 〔海外〕 ●2002年度比で8.5%減	○
	〔日本〕 ●1998年度比で生産高原単位を22%減 ●全拠点でゼロエミッション達成 〔海外〕 ●2002年度比で生産高原単位を16%減 ●ゼロエミッションの推進	〔日本〕 ●1998年度比54%減 ●2拠点でゼロエミッション未達成 〔海外〕 ●2002年度比16%増 ●2拠点であらたにゼロエミッション達成	×
	●あらたに2拠点で無害化処理実施	●4拠点でPCB含有コンデンサ15台の無害化処理	○
	●排出量、移動量2005年度生産高原単位を維持	●排出量:2005年度比31%増 ●移動量:2005年度比585%増	×
	●2005年度総量を維持(日本)	●OA紙:2005年度比28%減 ●水:2005年度比15%増	△
	●2005年度生産高原単位を維持(日本)	●NOx:2005年度比90%減 ●SOx:2005年度比91%減	○
	●2005年度総量を維持(日本)	●BOD:2005年度比38%減 ●COD:2005年度比17%増	×

 エコ-ロジスティクス	物流領域での CO <sub>2</sub> 削減	●CO <sub>2</sub> 排出量削減目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目標未設定</li> <li>日本:6,101トン(改良トンキロ法で計算)</li> <li>海外:51,432トン(改良トンキロ法で計算)</li> </ul>	×
	物流領域での省資源	●物流資材の削減継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>●代理店へのリターナブルシステム展開</li> <li>●外箱標準化によるオリコン積み付け実施</li> </ul>	○
 エコ-コミュニティ	報告書／ サイトレポートの発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>●報告書の発行継続</li> <li>●報告対象範囲の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業の公器性報告書2011年版の発行中止</li> <li>●ウェブサイトでの情報発信継続</li> <li>●報告対象範囲に日本3拠点、海外2拠点を追加(合計89拠点到拡大)</li> </ul>	×
	環境広告／展示会	●環境フォーラムの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経費削減の一環で、展示会や環境フォーラムの企画を中止</li> <li>●日経エコロジーなどで広告掲出</li> </ul>	×
	環境社会貢献活動	●社会貢献活動の実施継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本11カ所で森林保全活動を実施</li> <li>●小学校での環境出前授業(3校、143名)</li> </ul>	○

# 環境マスバランス

## 投入量と排出量をグローバルに把握

事業活動は、天然資源の消費、CO<sub>2</sub>や有害物質の排出など、さまざまな形で環境に負荷をかけます。そんな環境負荷を低減するために、オムロンでは、環境省の「環境報告ガイドライン2007」に準じて、事業活動におけるエネルギー・資源の投入量(INPUT)と廃棄物・排気・排水などの排出量(OUTPUT)を世界89拠点で把握、集計し、環境マスバランス(物質収支)を分析し、対策を講じています。



- ※1 各事業の主要製品の年間出荷台数から試算。
- ※2 事業活動にともなって発生する産業廃棄物、事業系一般廃棄物、および有価物。
- ※3 購入電力のCO<sub>2</sub>排出係数は電気事業連合会発表の最新の全電源平均受電端係数(0.351kg/kWh)を使用、  
 その他燃料は改正温対法に定められた係数を使用。
- ※4 5ガス(CH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>O、HFC、PFC、SF<sub>6</sub>)は改正温対法に定められた地球温暖化係数を使用してCO<sub>2</sub>換算。
- ※5 日本のトラック、営業車で使用するガソリン、軽油が対象。
- ※6 主要製品の年間販売台数 × 時間あたりの消費電力量 × 時間の平均使用時間から試算。